

教材教具および題材	学部	授業名（主たる教科領域）	執筆者
はなび	小	グループ学習 低学年 (図工)	井本 露野

<ねらい>

- ・あそび活動を通してイメージを膨らませながら作る。
- ・簡単な道具を使いながら、作ることを楽しむ。

<内容（作成方法・使用方法・工夫点など）>

- ①活動の初めに絵本『びっくりはなび』を見聞きしをしたり、授業の初回に花火の動画を見たりして花火に対するイメージを膨らませました。
- ②はさみで紙を切ったり、アルミホイルや紙を手でちぎったりしました。
- ③切ったりちぎったりした紙を箱に入れて、空気砲を飛ばすように箱をたたいて飛ばし、花火に見立てたあそびをしました。また、のりを塗った大きな紙に向けて紙を飛ばして花火を描くことにも取り組みました。

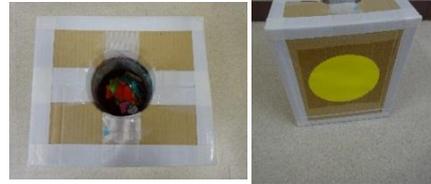


<作り方>

- ①空気砲のように段ボールの一面に穴をくり抜く。穴の大きさは、1.5Lの丸型ペットボトルが入る大きさ。
- ②1.5Lのペットボトルを切る。
(→の部分が必要)



- ③切ったペットボトルの片方に、ミカンネットをかぶせてテープでとめる。
- ④ネットのついた面を下にして段ボールにペットボトルを入れて、透明テープで固定する。
- ⑤できあがり



<良かった点・改善点（児童生徒の反応を含め）>

- ・“つくる”ということに集中し続けることが難しい児童もいたので、切る・やぶくという活動をした後は、そのものを使って楽しくあそべるように“はなび”を選びました。
- ・紙は1回切りで切りました。最初は細長い紙で、1枚の紙を何回も切っていましたが、同じ紙を何回も切ると活動に飽きてくるので、小さな紙を何枚も切るように改善しました。
- ・絵本の読み聞かせの時に、「ヒュー、パーン」と言ったり、手で花火が上がっていく様子をやってみたりすることで、箱から紙を飛ばすときも「ヒュー、パーン」と言っただけの花火のイメージで遊ぶことができました。
- ・繰り返して活動することで、切る・やぶる活動の後に箱から紙を飛ばす遊びがあると分かり、切る・やぶるも集中して取り組める時間が長くなりました。

<その他（材料、費用、購入先等）>

- ・模造紙(黒)
- ・折り紙などの切りやすい紙
- ・おはながみ(児童は切らないが、あそぶときに混ぜておくときれいに飛ばす)
- ・水のり
- ・アルミホイル
- ・ボンド

